
鶴屋さんの傷心

深鏡棕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鶴屋さんの傷心

【Nコード】

N1432G

【作者名】

深鏡棕

【あらすじ】

映画館のチケットを手にキョンをデートに誘う鶴屋さんだが。

（前書き）

短編3部作の第3部です。第1部・涼宮ハルヒの感慨、第2部・古泉一樹の幫助と合わせて読んでいただけると嬉しいです。

いいものをもらった！

あたしは映画のチケットを胸に学校への道のりを急いだ。

キョンくんは明日暇っかなー？

あたしは、倦怠感に塗れた後輩の顔を思い出してほくそ笑んだ。

正直、あたしの中ではこの行為はルール違反だ。

キョンくんははるにゃんのモノであって、あたしのモノじゃない。

そんなことはわかつちやいるんだ。

でも、たまにはかわいい後輩と映画をしゃれ込みたい、おねえさんの気持ちもわかってほしいっさっ！

「おっはよ」

すれ違う生徒に元気よく挨拶！

日常と同じ行為なのに日常と違う心境とはこれいかに！

それは明日、キョンちゃんとデートだからっさっ♪

靴箱のところに到着っ！

朝だというのにまだ暑いつさー。

常夏だね、常夏！

お目当ての人物をあたし自慢の『鶴屋さんアイ』で目ざとくサーチっ！

「サーチに反応っ！」

ちょうど靴を靴箱に入れようと朝からだるそうに一連の動きを行う男子生徒を発見！

まあ、だるそうにしないキョンくんの姿など早々見えるモノではないけどっ！

「やあやあやあ、そこをゆくのはキョンくんじゃないかいつ！？」

大きな声であたしの存在をアピール。

うんうん、何事もアピールするのは大事っさ！

「あ、おはようございます、鶴屋さん」

「おっはよー！」

「はあ、鶴屋さんは朝から元気がいいですね」

「そういうキョンくんは元気がないっね！どっかしたのかな？お姉さんにいつてごらあん？」

顔色は悪くないんだけど、若干覇気を感じないな！。

精神的に疲れてるっばい？

「うーん、大したことじゃないんですけどね。まあ、鶴屋さんの元気を俺にも少し分けてほしいと思っている次第で……」

「おいおいおい、聞き捨てならないなあ」

「え？」

「いっつもあげてるっさ！最大限の元気♪」

「俺の心まで届いてないので、電波が弱いんじゃないですかね？」

「おいおい、あたしの元気は電波かい！」

「よおし、そんなキョンくんに朗報だ。お姉さんがいいものをプレゼントしよう」

あたしはスカートのポケットに放り込んだ映画のチケットを弄り出す。

そしてそのままキョンくんの右手に強引にチケットを握らせる。

「キョンくん、映画のチケットを2枚もらったから、1枚あげるによろ。明日、映画館の前で13時に待ち合わせ」

「え？」

「無理っかな？」

「いや、よ、喜んで」

「そいつあ、よかった！あはははははは」

あたしは笑いながらキョンくんに背中を向けた。

ミッシヨンコンプリートによるー！！

「あっ」

あたしの視界内に入ったのはハルにゃん。

うーん、見られたっかなー？

「おはよつ、ハルにゃん！」

「おはよう、鶴屋さん。さっきのは何？」

おお、不機嫌そうだあ。

こりやさっきの見られたね。

どうやら運命の女神さまってやつあ、あたしとキヨンをくつつけたくないみたいによる。

キヨンの相手はあたしでもなければ、みくでもないし、長門っちでもない、目の前のハルにゃんなだろうなあ。

うんうん、仕方ない。

ここはおねえさん、ガマンのしどころっさね！

「ハルにゃん、明日の13時って暇っかな？」

「え？まあ、時間を作れといわれれば作れなくもないわ」
全く素直じゃないなあ。

おねえさんは、ハルにゃんのためにちょちょ切れる心の涙を拭い
つつ、キヨンを譲ってあげるっのにつ！！

まあ、運命さまには逃げられないってことで。

「はい」

「映画のチケット。明日の13時、映画館前っさ」

「……いいの？」

「ワンピースでも着て行くとキヨくん喜ぶっさ！あたしの見立て
じゃワンピースにも弱いとみたね」

「し、仕方ないわね、もらっておいてあげるわ」

口元から笑みが零れるのをガマンしてるさまは可愛らしい。

「チケットありがとう、鶴屋さん」

そついうとのしのと廊下を歩いていくハルにゃん。

「はあ……まあ、しょうがないっか」

「おはようございます、鶴屋さん」

捨てる神あれば拾う神ありだねっ！

「みくる、明日買い物に行かないっかい？買いたい茶葉があるって
いつてったよね？」

「ああ、は、はい！」

「よし、決定っさー！」

負け犬同士、傷を嘗めあおうよ、みくるっ！

……にろうん（´・ω・´）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1432g/>

鶴屋さんの傷心

2010年10月9日07時41分発行